

Ⅲ 各教科の調査結果に見られる課題と改善方策

1 国語

(1) 小学校国語

① 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えること【A5二】

5

次は、読書のことについて書かれた新聞の「コラム」(筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事)です。この「コラム」は、全体の内容が1から5までのままとまりに分かれています。これをよく読んで、あとの「二」の問いに答えましょう。

「コラム」 記事の中の▼は、ままとまりを表す印です。

1▼四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しさを味わう日である。2▼子供のころ、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がおどった。3▼ある作家の言葉に、「読書という

1 筆者は、「子ども読書の日」について、自分の読書体験を交えながら書いています。その体験が書かれているままとまりを、【コラム】の中の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

2 筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点(。)、読点(、)、かぎ(「」)は字数にふくみません。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

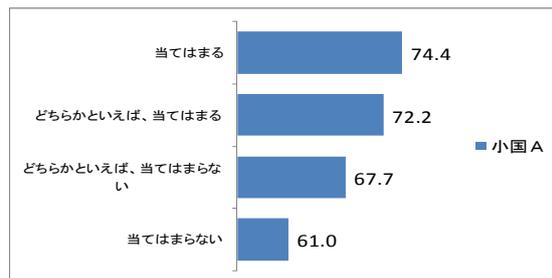
〈解答類型・反応率と課題〉

		解答類型	全国 (公立)	県 (公立)	自 校
1	◎	「読書という」と解答しているもの	19.8	18.5	
2		「ある作家の」と解答しているもの	3.7	3.4	
3		「子ども読書」や「世界本の日」、あるいは「セロ弾きの」と解答しているもの	23.4	23.2	
9		上記以外の解答	45.5	46.0	
0		無解答	7.7	8.7	

- 解答類型3**は、「引用」した場合はかぎ(「」)で括弧ということについては捉えているが、**引用の必要性や効果を考えた上で引用している言葉を判断することができなかつたもの**と考えられる。
- 解答類型9**の中には、「世界の人々」や「本を楽しむ」という5のままとまりに反応しているものが多くあった。このように解答した児童は、設問における「**自分の思いや考えを根拠付ける**」ものを、5のままとまりに書かれている**筆者の思いや考えを述べているもの**と誤って捉えたと考えられる。

〈関連する児童質問紙・回答別の平均正答率〉

質問項目	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか(肯定的回答)	
全国 (公立)	県 (公立)	自 校
65.2	59.4	



〈今後の指導に向けて〉 **根拠を明確にして、自分の考えを述べたり書いたりする授業実践を！**

第4学年で学習する「引用」について、引用の仕方や、効果・有用性に気付かせる指導を行う。教科書で学ぶ時だけではなく、継続的に指導していくことが大切である。また、説明的文章を扱う授業等において、筆者の主張と、主張を根拠づける資料等を区別して読み取らせる指導を取り入れる。

【例1 4年「引用」の効果や用い方に関する指導例 「くらしの中の和と洋」(東京書籍4年下)】

どちらの文章が和室の良さをしょうかいできているでしょう。また、なぜそう思いますか。

- A 多くの親せきが一つの部屋に集まるときには、和室の方がすごしやすいと思います。
- ⓑ 「くらしの中の和と洋」という文章によると、和室の良さについて、「和室のたたみの上では、いろいろなしせいをとることができます。」(59ページ)、「人と人との間かくが自由に変えられるのもたたみの良さです。」(59ページ)と説明されています。多くの親せきが一つの部屋に集まるときには、和室の方がすごしやすいと思います。

定義の指導(他の人が書いた文や言葉などを自分の文章に取り入れて使うこと)に併せ、引用文が主張に説得力を持たせたり、物事を詳しく説明したりするのに効果的であることに気付かせる。表記(「」をつける)の指導では、会話文や強調、本等の名前につける「」と違うことも意識させる。

↓ 《発展》 引用をして考えを述べる活動 ↓

和室と洋室のどちらが好きか、「くらしの中の和と洋」から引用して自分の考えを書きましょう。

(記述例) 私は、和室の方が好きです。その理由は、「くらしの中の和と洋」の中に、「和室は、ゆかにたたみをして仕上げ、あまり家具を置かないようにします。」(58ページ)と書いてあり、私は、家具の少ない部屋の方が好きだからです。

☆短文形式から長いものへと経験させていく。
☆教科書で学ぶ際だけでなく、継続的な指導を行う。

【例2 3年 発信者の思い・考え・主張や、それを根拠づける資料等を読み取らせる指導例】

「ほけんだより」の内容に合うように資料とメッセージを組み合わせてみましょう。

<p>ほけんだより</p> <p>熱中症に注意しましょう</p> <p>暑い季節になりました。この季節になると、熱中症といって、暑さのために体の調子が悪くなることがあります。</p> <p>資料</p> <p>みなさんへのメッセージ</p> <p>正解は資料AとメッセージB 資料BとメッセージA</p>	<p>資料A こんな時はきけん!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めまいやはき気がする ・体温が高い ・皮ふがかんそうしている ・いしきのはっきりしない 	<p>資料B 熱中症予防のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すずしい服を着ましょう ・体調に注意しましょう ・水分をこまめにとりましょう ・日ごろから暑さになれましょう
	<p>みなさんへのメッセージA</p> <p>熱中症にならないためのじゅんぴをして、楽しい夏をすごしましょう</p>	<p>みなさんへのメッセージB</p> <p>「おかしいな。」と思ったら、すぐに運動をやめて、すずしいところで休みましょう。</p>

ポイント

- ・引用の形式や効果を理解させ、引用箇所を読み取らせたり、引用をして書かせたりする活動を取り入れた授業を充実させる。
- ・筆者の主張と、事実・体験・エピソードや資料とを区別して読み取らせる。
- ・パズル形式にするなど、取り組みやすい工夫を発達段階に応じて取り入れた授業を充実させる。
- ・継続的な指導を通して、判断の根拠を言語化させる習慣を付けさせる。